

地軸

「JIS X 8341」。

暗号めいたこの記号を、寡聞にして知らなかった。情報通信機器・サービス開発の際、高齢者や障害者が利用しやすいよう配慮するための日本標準規格という▲目指すは「インターネットのバリアフリー化」。音声読み上げソフトを使って「画面を聞く」視覚障害者でもパソコンに慣れない高齢者でも、少しの工夫で操作が楽になる。見出しや文字を拡大し、色を強め、画像や音に文字情報を付ける、など▲「情報アクセシビリティ(使いやすさ)」を高める配慮は誰にも優しく、重要。自治体など公共のウェブサイトは10年前から対応が進むが、民間では遅れ気味。障害者への差別的取り扱いを禁じる障害者差別解消法も、来年施行される。ネットも心も、もっと平らかに▲規格は、視覚障害がある小高公聡こたかこうさとしさんの講演で知った。社員230人中、障害者が178人いるNTTクラリティ(東京)で、アクセシビリティを当事者の視点で検証している。

「障がい者は特別な存在ではない」「障がいは強み。あるからこそ、できる業務がある」。言葉は、力強かった▲きのう本紙に、県内企業の障害者実雇用率は全国ワースト2位―との記事があった。生かせるパワーが、もっとあるはず。共に働くことで、健常者の側も支えられ、学んでゆく▲規格の「8341」は「やさしい」の語呂合わせなんです、と小高さん。数字に込められた思いが、温かい。

2014.11.28